



1 次の文章を読んであとの問いに答えよ。

(承平四年十二月二十一日)

男もすなる日記といふものを、女もしてみんとするなり。その年のしはすの二十日あまり一日の日の戌の時に、門出す。その由、いささかにもに書きつく。

ある人、<sup>注</sup>県の四年五年はてて、例のことどもみなしをへて、<sup>注</sup>解由などとりて、住む館より出でて、船にのるべきところへわたる。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろよくくらべつる人々なん、わかれがたくおもひて、日しきりにとかくしつ、ののしるうちに夜ふけぬ。

(注) 1 県 地方官勤務

2 解由 国司などの任期が終わった時、前任者から後任者に諸務を引き継ぎ、後任者がそれらに異常や怠慢のないことをしるして、前任者に渡す書状。

(1) 線 同じ意味の助動詞を含む文を次の中から一つ選べ。

イ 「火危ふし」と言ふ言ふ、預かりが曹司の方に去ぬなり。

ロ 聞けば、侍従の大納言の御女なくなり給ひぬなり。

ハ さすがに住む人のあればなるべし。

ニ おひ先見えて、美しげなる容貌なり。

(2) 線 について次の問に答えよ。

「しはす」を漢字で書け。

「二十日あまり一日」の読みを書け。

「戌の時」の現代での時刻を漢字で書け。

(3) 線 を現代語訳せよ。

(4) 線 の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ 一日中、あれこれして大騒ぎするうちに夜がふけてしまった。

ロ 一日中、あれこれと語り合っているうちに夜がふけてしまった。

ハ 一日中、あれこれと思い悩んでいるうちに真夜中になってしまった。

ニ 一日中、あれかれと言ひ争っているうちに夜もふけた。

(4)	(3)	(2)	(1)

